おいしそうなケーキを待ちきれない様子で見る子どもたち

ふるさとの思い出に小田川の榎の木「大きな榎の木の下で」を開催

きれいな小田川を未来に残すことを目的とした「第23回大きな榎の木の下で」（同実行委員会主催）は12月6日、五十崎自治センターで開かれました。

あいにくの天気で室内での開催となりましたが、毎年楽しみにしている多くの子どもたちが参加。榎をかたどったケーキを食べたり、榎を題材にした紙芝居を見たりして、小田川の楽しい思い出をつくりました。

雪が降る中で行われたテープカット

シーズン到来！ソルファ・オダスキーゲレンデで安全祈願祭

ソルファ・オダスキーゲレンデ（田中年満（としみつ）代表取締役社長）は12月13日、スキー場のオープンを前に「安全祈願祭」を開きました。（オープンは12月20日）

関係者30人が参加し、神事とテープカットを行いました。田中社長は「最高の雪景色の中で安全祈願祭を行えた。今年の冬は、ぜひ内子町の雪山を満喫していただきたい」とあいさつしました。

クリスマスソングを演奏するYamanami-Band（ヤマナミバンド）の皆さん

きれいなイルミネーションを楽しみながら「スバルクリスマスコンサート」

毎年飾るイルミネーションを活用しようと「スバルクリスマスコンサート」が12月20日、文化交流センタースバルで初めて行われました。イルミネーションが見えるエントランスホールを舞台に、地元のバンド3組が演奏。大人と子どもの2部構成で、年齢に合わせた楽曲でクリスマス気分を盛り上げました。子どもの部に集まった約120人は歌ったり、ケーキを食べたりして楽しみました。

楽しそうに麹と蒸した大豆を混ぜる子どもたち

おいしい「みそ」できたかな達人から学ぶ、みそづくり

内子町の達人に学ぶ「親子でみそづくり」（内子町主催）が12月21日、内子自治センターで行われ、13組29人の親子が参加しました。大程幸子（ゆきこ）さんを講師に迎え、大程さんが住む程内地区に伝わるみそづくりを学びました。大程さんは「麹づくりを合わすと、本当は3日間かかる作業。つくったみそは家に持ち帰って、半年くらい熟成させると食べ頃」と説明していました。

広がる手漉き和紙の世界和紙の創作品で伝える魅力

手漉き和紙の良さを伝える「和紙創作展」（界隈づくり委員会主催、大森陸雄（りくお）会長）は12月13・14の両日、㈱天神産紙工場で開かれました。

創作展には㈱五十崎社中、自然派工房なるた、折紙工房千鶴と天神産紙工場で働く若い手漉き和紙職人の2人が出品。ギルディング和紙や和紙のアクセサリーなど約100種類の作品が展示されました。また和紙の折り紙や手漉き和紙のハガキづくり体験などが行われました。

手漉き和紙職人になって3年目の成見優子（ゆうこ）さんと8カ月の宮脇伽奈子（かなこ）さんは、共同で「和紙の花ストラップ」を制作。つまみ細工という技法で作った小さな和紙の花を、ストラップやかんざしにあしらうなど、若い感性で和紙の魅力を引き出しています。

大森会長は「作家の皆さんが真剣に和紙と向き合い、模索しながら和紙の可能性を引き出そうと頑張っている。可能性はまだまだ広がっているので、創作展を続けながら大洲和紙の良さを伝えていきたい」と話しました。

1

3

4

2

1_和紙の魅力を話す宮脇伽奈子さん（手前）と成見優子さん　2_五十崎社中のギルディング和紙　3_自然派工房なるたの和紙アクセサリー　4_和紙の花のかんざし

内子座で活動を続けて20年劇団オーガンスが記念公演

設立20周年を迎えた劇団オーガンスが11月23日、内子座で記念公演「コールド・スリープ」を開きました。

物語は50年後の内子町が舞台。不治の病で余命宣告を受けた恋人を助けるため、2人で病気を治せる未来まで人体冷凍保存（コールドスリープ）するというSFコメディー。変わり果てた未来の世界で「生きることとは何か」と訴えます。笑いと涙を誘う演技に、観客から大きな拍手が送られました。

個性豊かな登場人物たちが会場を沸かす

さまざまな秋の実りに感謝「東自治センターまつり」

「東自治センターまつり」は11月23日、内子東自治センターで開かれました。

例年より遅い開催となりましたが、天気に恵まれ大勢の人が訪れました。会場では内子高校郷土芸能部や空手同好会などが日頃の練習の成果を披露した他、くじ付きの餅まきや管内各自治会のバザーが行われました。来場者は食事などをしながら、実りの秋を満喫していました。

内子高校郷土芸能部が会場を盛り上げる